

厚田学園開校準備委員会 第13回会議【質疑要旨】

- ・日時 令和元年7月26日（金） 18：35～19：42
- ・会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ・出席者 委員12名
 - ・保護者： 小笠原英史（厚田小・厚田中PTA会長）
角田由希（厚田保育園父母の会）
阿部 保（聚富小中PTA会長）
 - ・学校関係者： 石橋浩明（厚田小校長）
丸山真嗣典（厚田中校長）
青山 司（聚富小中校長）
 - ・学校支援推進員： 渡邊教円（厚田小）
小林晴美（厚田中）
 - ・地域の教育関係者： 渡部賢二（旧・望来小学校支援推進員）
 - ・厚田区地域協議会： 築田敏彦（厚田区地域協議会会長）
 - ・学識経験者： 佐藤勝彦（委員長：札幌大学名誉教授）〔委員長〕
前田賢次（北海道教育大学札幌校准教授・教育方法学）〔副委員長〕
- 教育課程部会 鬼塚建次（厚田小教頭）、杉原大樹（聚富小教頭）、
（学校管理職） 野口俊之（厚田中教頭）、北村 剛（聚富中教頭）

事務局

〔市教委〕

佐々木生涯学習部長、佐藤教育指導担当次長、東社会教育担当次長（兼市民図書館長）、安崎総務企画課長、佐々木学校教育課長、山田指導担当参事、相原厚田生涯学習課長（兼厚田支所市民福祉課長）、松永総務企画課主幹、栗谷厚田生涯学習課主査

※欠席1名（早坂伊佐雄委員（前・厚田中PTA会長））

※傍聴者無し

- 委員長あいさつ（佐藤委員長）の後、会議次第により、次のとおり議事が進められた。
- 前回会議の質疑要旨の内容確認

全委員より了承をいただいた。

■ スクールバスの運行計画（事務局案）について

別紙資料「厚田学園スクールバス運行経路想定図」に基づき、厚田生涯学習課・相原課長より説明した。

- ・朝8時までに、厚田学園に登校できるようにすることを考え、①聚富～厚田学園 ②望来～厚田学園 をそれぞれ運行するため、バス2台が必要と考えている。また、③発足～厚田学園（混乗便）は現行どおりの運行を考えている。
- ・厚田学園の校舎施設内に厚田保育園を併設するにあたり、「スクールバスに保育園児を同乗させてほしい」との要望があったことを受け、そのことについても検討した。現時点では、赤色の点線で示す経路上（正利冠～望来～桂沢～厚田学園）であれば、保護者や添乗員が同乗した上で可能ではないかという方向で検討しているが、所管の保健福祉部と協議している中で2つの課題点がある。
- ・一点目は、スクールバスなので、土曜日及び夏休み・冬休み期間は運行しないことを考えると、保育園児が乗車できるのは年間約200日となること。
- ・二点目は、保育園児の帰りの便についてである。現在、厚田小中から望来へ戻るバス（帰りの便）を3便運行している。
 - ① 14：45発は、小学校低学年を乗せるバス
 - ② 15：50発は、小学校低学年以外と、中学校の部活動に入っていない生徒を乗せるバス
 - ③ 18：00発は、部活動後の中学校生徒と、スポーツ少年団（野球）の児童

但し、③は、部活動が無い日は運行せず、なおかつ保育園は原則17時までとなっていることから、保育園児のための帰りのバスとして運行が困難な状況である。

- ・また、保育園児の乗車にあたっては、大人（親・保護者、添乗員）が同伴することを前提に検討しているが、例えば小・中学生の兄や姉がいる保育園児の場合に、兄姉を同伴（添乗）者として認めることはできないという見解である。加えて、仮に朝も帰りも親以外の大人が添乗同伴とした場合、親・保護者が園児（自分の子）を保育士に直接引き渡されず、家庭での様子、日中の保育園での様子を口頭で直接伝えることができなくなる。これらの課題等について引き続き庁内で検討していくこととしている。

【質疑応答】

（A委員）

厚田学園になると、今の小学生は通学距離がこれまでより遠くなるので、登校時の安全を考慮し

て冬季間だけでも別狩地区に住む子供たちもスクールバスに乗って登校できるようにできないかということ町内会からも要望を受けたが、実際のところ先生方はどのように感じておられるのか伺いたい。

(厚田小・石橋校長)

私も別の会議でご意見をいただいた。現在でも冬の吹雪の日は、別狩から厚田小まで登校するのが大変なので、さらに高台に位置する厚田学園の新校舎までを徒歩で登校することを考えると、国道にガードレールが設定されていないこと等も含め、特に低学年の児童には不安があると感じている。

(相原厚田生涯学習課長)

そのようなご要望はすでに伺っており、現在も登校時に悪天候や吹雪の際にはバスに乗車させるなど臨機応変に対応していることもありますが、天候に関わらず毎日乗車することとするのか、悪天候の日だけの対応するかについては、もう少し検討を重ねたほうが良いのではないかと考えているので、もう少し時間をいただきたい。

(B委員)

望来地区から保育園児をスクールバスに乗車できるようにするためには、親・保護者が同伴しなければならないという説明だったが、親・保護者が園児と学校に着いた後に望来の車庫まで戻るといことになる、親・保護者は自家用車で送迎したほうが良いという話になるわけで、「親・保護者の負担が大変だから園児をスクールバスに乗せてくれないか」という要望があったことを受けての議論なわけだから、もう少し何か良い方法を考えていただけないかと思う。

(相原厚田生涯学習課長)

例えば、親・保護者同士が話し合いをされて、交代で同乗していただけるということになればそのようにしていただきたいと思えますし、市の方で添乗員を配置できるかどうかを検討しておりますので、今後どのような形になるかわかりませんが、園児や児童生徒だけで乗車するのではなく、大人が付いて安全確認をして運転手だけに任せないようにする体制を作ることが前提であると思っています。また、朝7時半にバスに乗車して、学校到着が8時頃となり、望来の車庫に戻ってくるのが8時半頃ということ想定すると、この約1時間に限定して添乗していただける大人の方を探すのが大変だと思っており、それらを含めてどんな方法があるのかをもう少し検討したいと考えている。(→ B委員、了承)

(C委員)

今の説明で、部活動が無い日は保育園児の帰りの便の運行が困難ということだったが、まだ検討の余地があるという理解でいいのか。

(相原厚田生涯学習課長)

検討の余地はあるが、その他の下校便①②についても学校行事等で時間が変更になる場合が多い

ため、保育園児の帰りの便に当てはまるかどうかについては、相当深く検討をした上で運行できるかどうかの判断をしなければならないということをご理解いただきたい。

(C委員)

保育園児も乗車させるという前提の中での検討であると思うので、乗車させる以上は、部活動や学校行事等の有無に左右されない運行スケジュールを考えてもらいたい。

(佐々木生涯学習部長)

現在、検討の前提としているのは、スクールバスに保育園児が乗れるのであれば乗ってもらえるような算段を考えようということであって、スクールバスは運行しないけれども保育園児をバスで送迎しようという発想ではなく、もしそれを実現しようとする場合には、スクールバスとは違う手段が必要で、別の視点からの検討が必要になると考えている。そのようなご要望があるということを持ち帰って保健福祉部に伝えるが、保育園児を必ず乗せるということが検討のスタートではないことをご理解いただきたい。

(佐藤委員長)

このスクールバスの運行計画については、今日の提案をもとに次回の会議で最終案として事務局から提示されることになっており、保育園児の送迎手段についても庁内で十分検討していただくことを願います。

■ 開校準備関連予算（案）について

配付資料に基づき、市教委総務企画課・安崎課長より説明した。

【質疑応答】

(C委員)

校舎と体育館の暖房については、備品ではなく本体工事の中に設備として含まれているということによろしいか。また、夏の熱中症対策として冷房（エアコン）を設置導入するという報道も見たが、札幌市等では学校数が多いので難しいとのことだったが、今の石狩市としての考え方や、厚田学園をモデル校として設置する考えがあるのかどうかについて伺いたい。

(安崎総務企画課長)

暖房は、校舎部分はFF式、体育館は遠赤外線、保育園は床暖房式となっている。また、冷房については、1階の保育園部分に一部設置する予定だが、学校施設部分への設置は予定していない。

(佐々木生涯学習部長)

昨年の全国的な猛暑で、文科省において急遽、冷房設置に係る予算が確保されたことを受けて、全国の自治体に対して設置意向の有無について照会があり検討したが、本市以外の道内及び石狩管内の自治体ではほとんど導入する予定が無いということがわかった。良いかどうかはわからないが、他の市町村の状況を見ながら判断していくということで、今のところ本市で導入する予定はない。

(B委員)

例えば、空港がある千歳市のように航空機発着時の騒音や、厚田学園についても道の駅ができたことや消防署が隣接していることで車両騒音があるので、教室の窓を開けなくて授業ができるような環境にしてあげることができないか。

(佐々木生涯学習部長)

管内の部長会議で情報交換をしたのですが、千歳市も含めた管内各市町村において、普通教室で冷房を設置している学校は無いということだった。

(C委員)

これからの考え方として、国も予算化している中で他市町村が導入していないからということではなく、石狩市独自の取組として検討していくべきではないかと思うがいかがか。

(佐々木生涯学習部長)

そのようなご意見、考え方もあるが、限られた財源で何にお金をかけるのが効果的なのかということだと思っている。北海道で冷房（エアコン）を設置して、年間通じて何日使うのかを考えたとき、それよりは例えば暖房の方に予算をかけるべきではないかというのが、現状としての一般的な考え方ではないかということでご理解をいただきたい。

(佐藤委員長)

猛暑の年と冷夏の年があるので、この件についてはもう少し先に判断が必要になってくるテーマだということで、市教委には引き続き検討していただきたい。

(B委員)

電子黒板が設置されると、引き続きテレビやDVD等も見られるようになるのか。

(安崎総務企画課長)

基本的に、電子黒板とパソコンを接続すれば、これまでどおり教育活動の範囲で映像を見ることが出来るものと考えている。(→ B委員、了承)

(D委員)

約3,300万円の開校準備に係る予算について、学校現場からの要望をどのくらい聞いた上で、ど

のくらい応えることができたのかを伺いたい。

(安崎総務企画課長)

学校からの要望を全て積み上げて予算編成ができたわけではないのでお答えしにくい。

(厚田小・石橋校長)

事前に要望リストを出させていただき、厚田学園以外の市内の学校の状況もある中で、新しい学校として最低限必要となる備品等の予算措置をしていただいたと思っている。全て新品ということではなく、現在厚田区の各学校で使用しているものを活用して教育活動を充実していくのも私達の仕事であると考えている。(→ D委員、了承)

■ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

配付資料に基づき、市教委総務企画課・松永主幹より説明した。

- ・前回の会議で、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の概要について、イラストの資料に基づいて説明をさせていただき、市教委では来年開校する厚田学園と石狩八幡小学校の2校を皮切りに、令和3年度（2021年度）には、市内全校で導入することを申し上げた。学校と地域が一体となって、特色ある学校づくりを進めるための仕組みとして、今後も引き続き、できるだけ多くの方に、このコミュニティ・スクールの制度を周知、理解してもらうよう、取組を進めていきたい。

※ 別添資料「みんなで地域の学校を盛り上げよう！コミュニティ・スクール（保護者・地域の方々へ）」を説明した。

- ・また、「厚田学園・石狩八幡小学校の開校に向けた合同研修会の開催」として、開校準備委員会委員の方々やPTA、保護者、地域の方々を対象に、外部講師を呼んでの合同研修会を開催する予定としております。日時、場所等を調整中なので、次回の会議でお知らせしたいと考えている。

【質疑応答】

(B委員)

学校運営協議会が発足したら、これまでの学校支援推進員（学校評議員）の制度は無くなるという理解でよろしいか。

(安崎総務企画課長)

これまでの学校支援推進員としての役割は残り、学校運営協議会の委員としてその役割を担って

いただくこととなる。(→ B委員、了承)

(前田副委員長)

コミュニティ・スクールについて、全国の少子高齢化が進む人口が少ない地域では、将来的に限界集落になるような可能性がある中で、どうやって学校や地域を残していくかという課題に向き合っていて進めており、先ほど協議されていたスクールバスや地域交通の問題等も含めた議論がされている。そこで、学校を残すということだけでは先が無く、どうやって学校を拠点にして地域が存続できるようにまともになっていくかが問われている。戦後は全ての学校がコミュニティ・スクールであった(物資が不足した中で、学校が中心となって地域と一緒に教育内容を作っていた)とされていて、時代の変遷によって子ども達の教育を学校に任せていく部分が非常に強くなってしまった今、地域の方々と一緒になって学校を盛り立てながら、地域を盛り立てていくという方便として、コミュニティ・スクールを推進しようという動きとなっている。形だけで整っていても良い方向にはいかないと思うので、ぜひこの厚田学園で持続可能な取組となることを期待している。

■ その他

(佐藤委員長)

明日から学校が夏休みに入るということで、4月から今日まで(第一節)の各学校での子ども達の様子等をお聞かせいただきたい。

【各学校の校長より、これまでの学校活動の振り返り報告】

(厚田中・丸山校長)

部活動(野球部、女子バレー部、文化部)、合同運動会について

(聚富小中・青山校長)

中学校の修学旅行(5月末の東京2泊3日)、最後の運動会について

(厚田小・石橋校長)

旧望来小との統合を受けての、これまでの学校運営について(参観日など)

※ 次回の会議日時について(松永総務企画課主幹より)

9月下旬~10月に開催予定である旨、説明した。

閉 会

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年11月7日

厚田学園開校準備委員会

委員長 佐藤勝彦